

「わたしたちのお葬式」

～弱さの中で輝く永遠の命の証～

「だから、私たちは、キリストと共に、すでに古い人が葬られたのである。そして、キリストが父である神の栄光に輝く御力によって、死人の中から復活されたように、私たちもキリストと共に新しい命を頂いて生活するのである。私たちはキリストと一つに結び合されて、共に死に、また、共に新しい命に復活した。」ローマ人への手紙6章4・5節 [現代訳]

先週の木曜日の午前中には「いのちの水計画」のスタッフの方から、中国宣教の現状についてお聞きしました。

現在の中国は大きな経済発展を追い風として、思想統制を強化しているということで、キリスト教もその大きな対象となっていて、非公認教会は大きな締め付けを受けているということです。今までは、外国からの批判に弱腰だった中国政府も、自国の力がついたことで、強気で締め付けを行なうようになってきたということです。

そんな中で中国のクリスチャンたちは監視カメラが街中に溢れている中で、信仰を公にすることができない、集会も表立っては開くこともできない。隠れてもすぐに見つかってしまう。国内にいる外国人に対しても、締め付けが厳しくなっているということです。それは教会関係だけではなくということです。

中国に聖書を持っていくことも、何度も税関を通過しているスタッフの顔はすでに認識されていて、中々通過できなくなっているということなので、あまり、中国の税関を通っていない方々の協力が必要であるということです。私もスケジュールが与えられたら、是非聖書を持って中国に入り込みたいと願っています。

中国で自由に神様を信じて、教会生活を送ることはほぼ不可能であり、命がけであるということです。もし公安に見つかり、牢獄に入れられたら、本当にひどい拷問を受けるということです。家族も犯罪者の家族として生きて行かなければならない状況です。

しかし、彼らの信仰はいきいきとしています。たとえ犯罪者として、拷問を受けたとしても、キリストにある本当の自由を頂いた者として輝いて生きることができ、永遠の希望、復活の希望を持って生きて行くことができることを心から喜んで人生を歩んでいます。

私たち日本人のクリスチャンたちの信仰はどうでしょうか？そこまでの感動を持って生きているでしょうか？しかし、ある意味で日本のクリスチャンたちも迫害の中で生きているように思えます。あまりにも少数派過ぎて、簡単には私たちの生き方を証しすることはできません。しかし、そんな現実の中にあっても「恐れるな、小さな群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである。(ルカ12:32)」と言われる主の御言葉を信じて、一歩ずつ前を向いて、主に従い続ける所に、命の輝きのある証しがなされると信じます！